

令和 7 年度 第 1 回 嘉瀬川・六角川・松浦川学識者懇談会 議事概要
(令和 7 年度 第 1 回 佐賀県川づくり委員会 合同開催)

日時：令和 7 年 10 月 23 日（木）15:00～17:00

場所：グランデはがくれ 1 階ハーモニーホール B

【出席者】

大串委員長、ナルモン委員、押川委員、加藤委員、古賀委員、重藤委員、滝川委員（WEB 参加）、
田島委員、徳田委員、山本委員

※佐賀県川づくり委員会（阿南委員、有吉委員、實松委員、川本委員、伊藤委員）

【結 果】 ■ 委員 ○ 事務局

1. 懇談会規約の改定について（資料 1-1）

○懇談会の委員について佐賀大学ナルモン准教授にご就任いただき、水環境分野の専門的な助言を得るため委員構成の見直しを行い規約を改定する。

■了承する。

2. 嘉瀬川水系河川整備計画（変更原案）の骨子について（資料-2）

1) 質疑

■バルーンフェスタ開催区間の掘削は具体的にどのように行うのか。

○詳細は検討中だが、利活用面積を減少させないよう、高水敷を最大 50cm 程度掘削することを想定している。その際、地下水への影響や高水敷を占用している佐賀市とも調整のうえ、設計を進める。

■環境への配慮目標等について、本文のどこに記載しているのか。

○「3.5 河川環境の整備と保全に関する目標(P.88)」や「4.2.3 河川環境の整備と保全及び河川利用の場としての整備（P.108）」など、項目毎に記載している。

■気候変動の倍率は地域毎に異なるものと考えられるが、今回は平均値を使用しておき、河川整備基本方針変更で詳細に検討するということか。

○気候変動の倍率は地域区分に基づき九州北西部の倍率を用いている。今後、河川整備基本方針の見直しにあたり詳細に検討する。

■ワンドや浅場を整備したのち、時間の経過とともに埋没していくことが想定されるが、維持管理は実施するのか。

○適宜モニタリング調査を実施し、状況を把握するように努める。

■ダム of 事前放流は具体的にどのように実施するのか。協定などあるのか。

○治水協定を交わしており、基準雨量に達した場合（予測雨量 164mm/6hr）に実施を検討する。現状は貯水位が低い状態で降雨が発生しており事前放流は実施していない。実施時には 3 日前から放流するため、下流への安全確保を行った上で放流する計画となっている。

■河道内の土砂掘削について、掘削した土砂について有効活用していただきたいが、河道域と海域を含めどのような土砂管理をしていくのか。

○嘉瀬川ダムも管理しているため、堆砂の一部は置き砂を行いながら有明海の環境も考えながら検討していく。また、河道掘削の土砂は堤防拡幅等への有効活用も検討したいと考えている。

■環境省等の省庁をまたいで連携し取り組んでほしい。

■気候変動を考慮した場合、整備が完成するまで時間を要するが、その間どのような対策を行うのか。

○ハード対策では、リスクをできるだけ下げる整備手順を検討する。また、水位が上がりやすい箇所は堤防強化するなどリスク管理をしながら整備を進めていく。ソフト対策では、災害の自分事化や、ハザード情報の提示や防災教育等を推進するとともに、田んぼダム等氾濫域における取り組みを関係者と連携しながら進めていく。

■工事の進捗だけでなく、リスクを含めた情報が住民に行き渡るように取り組んでほしい。

■官人橋地点で現計画+800m³/sの流量増となる。遊水地地点～官人橋間の河道は問題ないのか。

○嘉瀬川ダムの洪水調節は様々な降雨パターンから洪水調節効果を確認しているほか、遊水地は水位低減にも寄与するため、必要な整備を計画している。上流の知事管理区間は目標流量に対し、堤防高不足箇所の嵩上げや横断工作物の改築を実施する。

■海と川を回遊する魚がアユくらいしかおらず、魚類の遡上が難しい印象がある。既存の魚道の改良について記載してほしい。

○国管理区間については堰に魚道を設置し、縦断的な連続性は確保しており、どのような魚類が遡上しているか確認しているが、河川とクリークなど横断的な連続性が不足しているので取り組むことを記載している。

■過去に実施した浚渫や伐採等の工事の情報は確実に継承してほしい。

■環境に関する記載内容について、資料-2のP.11では課題とされている内容にとどまっている。嘉瀬川 환경을考えるにあたっては水そのものの関連付けから問題分析が大事であるが、その点に触れられていないため、整備だけでなく管理も目標として課題は明確に記載しておくべき。また、今回は知事管理区間と一体の計画なので、北山ダムとも関連付けて治水・利水の統合運用も考えるべきである。それによって環境も良くなると考えられる。

○今回は佐賀市の排水対策基本計画と連携していくために河川整備計画の変更を先行しており、現行基本方針の内数で記載できる内容となっているが、課題については再考して記載できるものは追記させていただく。佐賀河川事務所としては城原川、佐賀導水路、嘉瀬川ダムを所管している立場として全体的な構想を考えていきたい。

■変更計画の気候変動の考え方を教えて欲しい。確率規模はどうなるのか。

○現行計画は1/30規模で、変更計画は現行計画の雨量バンドでは1/80規模となるが、確率評価のベースとなる雨により変わることから、確率規模は記載していない。

■気候変動により渇水への影響が増加しているように感じるので、対策を記載して欲しい。

○今回の変更計画にも可能な限り記載させていただく。また、基本方針の変更を検討しているため、その中で具体的内容に踏み込んでいきたい。

■目標とする確率規模が1/30→1/80とかなり大きくなる印象を受けるが、河川敷の掘削と遊水地が主要工種ということではどうか。

○河道整備と遊水地整備に加え、嘉瀬川ダムの操作ルール変更による効果大きい。

■嘉瀬川ダムの操作ルール変更を考慮すると、河川改修よりも遊水池による効果が大きいと考えてよいのか。

○問題ない。

■ネイチャーポジティブや生態系ネットワークについて、変更原案の記載内容が一般的な記載にとどまっている。

○ネイチャーポジティブについては今後の検討課題と認識している。生態系ネットワークは嘉瀬川の場合は干潟、周辺のクリーク・田んぼとのつながりなど、具体的に検討したい。

■クリークとのつながりなど嘉瀬川らしいものを追記していただきたい。

■環境定量目標で場所（面積）の増加をあげているが、場所を増やすのが目的ではなく、生物がその場所に棲みつくための手段であるため、今後も継続的に河川水辺の国勢調査を実施するなどして、環境が創出された場所を確認してほしい。

■知事管理区間での河床掘削は1箇所のみか。また、掘削にあたっては濁水が生じるため、実施前には関係機関に対し事前の連絡をお願いする。

○河床掘削は知事管理区間の固定堰上流の一部のみである。

■気候変動の変化のスピードに整備が追いついていけないのか懸念している。

○整備の加速化、リスクを下げる整備手順に加え、防災教育などにより災害の自分事化への意識づくりに努めたい。

■雨水の貯留について具体的にどのようなものがあるか。

○下水道の雨水幹線の拡幅などが挙げられる。また、佐賀市による排水対策検討委員会でも検討されており、ある程度効果が見えており、努力が続けられている。

3. 意見聴取方法について（資料-3）

1) 質疑

■住民説明会について、広く動画配信できないのか。

○周知の方法については、実施可能な内容を確認する。

■アンケート等で得られた意見はどのように回答するのか。

○意見を取りまとめた上で、本文への反映等について資料に整理し、次回懇談会時に提示する。

4. 審議結果

審議の結果、嘉瀬川水系河川整備計画（変更原案）の公表及び意見周知方法について、嘉瀬川・六角川・松浦川学識者懇談会および佐賀県川づくり委員会として了承する。

5. その他

・嘉瀬川水系河川整備計画（変更原案）は10/27（月）に公表予定である。

・本文に関するご意見については、11/7（金）までに事務局まで連絡をお願いする。

以上